

琉球大学学術リポジトリ

沖縄返還交渉資料第4巻

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-07 キーワード (Ja): 総理訪米, 米国人記者との会見, 総理, 愛知外相, ニューヨーク・タイムズ, 愛知外相・ロジャーズ長官会談, 統合局長・スナイダー会談, 記者会見, 外相, 官房長官, 米国下院歳出委員会対外活動分科委非公開聴聞会, スナイダー国務省日本部長 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43630

全国各学者大会に於ける公衆知大見
講演(44.1.20)

○
○
○
○

一月二十日の全国経管者大会における
知外相の講演（沖繩に關する部分）

沖繩については百万の同胞がいる、これを
米國から奪取するのではなく、平和的協議
で領土返還を求めろ。このことが成功するこ
とはこれからの外交の境界線なかつの價値
新しいパターンにあると思ふ。同時に日本の
民族的自覚を形成するゆえんと思ふ。その意
味から、世の中には米國に取られたもの

平和条約でゆえなく占拠されたもので、即時
無条件にカブくでも取るんだという考え方
は全然間違いだと思ふ。

今日においての、基本的には日米關係は、
相互の國益からいって、結ぶべきを離れるゆ
けにはゆかない。日本の生きる道はこれ以外
にはない。同時に、日米關係は今日でも基本
的には非常にいいと思ふ。この時期に、この
日米の間であればこそ、領土問題も話し合
いで解決できる。これは一昨年の佐藤・ジョンソ

ン会議で兩三年のうち返還のメドつけるところまでいっている。確かに柔道でいえば、ワザあり一本をとった。もう半本とれば沖繩の返還はできる。必ずできる。でかさねばならぬ。と思う。必ず返還できる。それも、人々に遠からざる将来において日本の沖繩県になる。私は自信を持ってこの仕事に白旗を打ち、それができれば、これは大きな戦後処理であり、戦後の総仕上げということができると思う。

同時に、この沖繩が片付けば、より遅く、おソ連の国後、択捉占領の根拠というものは、世界的にこれはくつかえる。取って返した刀でというと、謬誤があるが、北方領土問題に取組んでゆくことが出来る。国後、択捉が回復されて、ヨソ間にも本当の平和条約ができるという事になれば、まずこれで戦後の総仕上げが完成するのでは無いかと、意気込んでいます。なんといつても、この沖繩問題が今後の最大の課題であると思う。同時に、沖繩問題について

ては基地の問題がある。この基地をどうするかというところで、本土並みか、そうでないかというところが毎日のように論じられている。勿論これは、返還を望む以上は、望むらくは本土並みが当然のことと思う。そういう線に於いてこれからもできるだけの努力をしてゆきたい。しかし、丁度戦後をひるがえって見る場合、吉田内閣当時、日本は早く臣領を脱して独立したい。その時に一方では吉田内閣のしようとしていることを單獨に知たという

談がずい分流布された。左翼は全自衛隊に知らせた。それだけよう、なるほど、全自衛隊が一挙にできるなら、それが理想に達したか、たろう。しかし、全自衛隊に通知していたから、一いつの日に独立できた。吉田内閣がやったことは、いわゆる多党連合で、できるところから平和条約を結んで日本は独立を回復した。そして、それを基礎に、次の鳩山内閣はソ連との間にとまかく国交を開く

ことができた。どんな人が広かっ
 て、今日では中英と国交がない
 だけか現状だ。物事はやはり
 實際的に、あたまたから百点と
 して、百点を取れば、要点でも
 いいというので、あまりにも非
 現実的ではないだろうか。やはり、
 こういうおぼろしい問題はワ
 ン・バイン・ファンに片付けて
 ゆくことだ。で、きること
 から一つづつ着実にゆくことだ。
 沖繩について、何より、
 絶対に必要のこと、基地につ
 いて本土並みか

できぬ限りは返還などいらぬと
 いうのなら、この領土というものは
 永久に、ほとんど日本に帰って
 こないかも知れない。アンガー
 中將の最後の仕事で、沖繩に労働
 布令が出された。その解釈をめぐ
 って、これは治安維持法みたいな
 人権を蹂躪する布令だ。といって
 大変な騒ぎが起っている。私は、
 その布令の内容を仔細に点検すれば、
 左翼のいうほど治安維持法的な
 ものでは無い。むしろ、むしろ
 中には駐留軍に使われている
 雇用の給与

水準を高めるとか、紛争が起きた時のさばき
方について、もっと民主的な方法をやるとか
いふ事の中には相当はいつてゐる。しかし、
そういうことが論議されて、その度に駐留軍
労務者もいろいろのねづらねづらを感じること
とはたしかに気の毒なことと思ふ。このよう
な問題も施政権が日本に返還されればいッパ
ンで解決する。日本において、日本の中にあ
る基地で働いてゐる労務者の人達と同じ法令
で彼等の地位は保障される筈だ。沖繩の人達

の人権尊重といふこと一つを考えてみて、
これは施政権が帰ってくるのがこの際何よ
りも必要である。そして、これで大きな一つ
をとつて、そして望むらくは本土並みにする
ことは、これからのベトナム情勢が平和にな
る。或は朝鮮半島の危機が和らぐ、国際的な
環境が改善され、或は中共も平和国家になる
といふことになれば、沖繩に米軍が基地を置
くこと、それ自体が不要なくなる時期もそん
なに遠くはなからう。或は核武装が沖繩の基

地に現在あるかたはわかぬが、しかし、
 核の停止力の傘下にあることだけは確かだ。
 しかし、その核も将来軍事科学が発展してく
 れば、ポラリス潜水艦などで洋艦という土地
 に置かなくてはすむように科学技術は進歩し
 よう。そういう環境の改善と合わせて、基地
 の本土並みということを解決すればいいので
 はないか。私は、最後の場合にはそこまで
 踏切ってゆくだけの気持は胸に置いてしかる
 べきではないかと思ふ。誤解があるといけな

いか、私の構え方はあくまで早期返還、そし
 てあくまでも本土並みが望ましい。それで一
 所懸命やる。しかし、相手との話し合いのこと
 であり、また、洋艦の軍事基地それ自体がわ
 れわれの自由と平和な経済の繁栄を守つてく
 れる。その一つの拠点であるというところがわ
 れわれにもはっきり理解されるならば、しば
 らくはその地位を承認してもいいのではない
 か。ニウという点が洋艦問題の今後の一つの考
 えの分れ目ではないかと考えている。――終――